

「鬼北町」誕生

「森がすすすす、川がいきいき、人が元気！」

鬼北町誕生によせて

鬼北町長職務執行者

山本雅之



平成十七年の新年を迎えるあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。今年も、私どもの地域にとりましては、新生鬼北町の誕生という歴史的な年であり、感慨一入のものがあります。

近年の私たちを取り巻く状況を顧みますと、経済の低迷と財政の硬直化、少子高齢化と過疎過密等の問題が一層深刻化しました。ま

た、道路交通事情の発達により生活圏が拡大し、生活様式も大幅に変ってきています。環境や状況が大きく変わっていく中で市町村合併の波も押し寄せてまいりました。

私どもは、この課題に対し、当初から「鬼北は一つ」を合言葉に、真摯な態度で合併に取り組んでまいりました。しかし、私の非力により、三町一村の合併は崩れ、最小単位での枠組みとなってしまうことは非常に残念であります。ここで改めてお詫びを申し上げます。

しかし、基礎自治体は単に大規模が良いとは言いません。産業、文化、人情、生活形態等の共通した地域が望まれることは当然であります。ある学者の意見として「良い合併ができるかどうかは、

気風が合うことがキーワードであって、人口や財政、経済などの統計的な数値で追えるような条件で判断してはいけません」とあります。その意味では決して大きな合併ではありませんが、様々な面から眺めて無理の少ない賢明な判断を下していただいたものと、ここに改めて町民各位に心から敬意を表し感謝申し上げます。

今後は、鬼北町民としての一体感の醸成に努め「森がすすすす、川がいきいき、人が元気」の実現に向かい、町民の皆さま一人ひとり、各自に何ができるのかという意識をもっていただきますよう切に願うものであります。

私どもの地域は、純然たる中山間地帯です。森林面積が八十五パーセントを占めており、先人のご苦労により美林を残していただいています。また、各種公共施設についても近隣団体に遜色のない整備をしていただいています。この貴重な資源や施設を高齢化と担い手不足の中で、どう維持していくのかという問題も抱えています。皆さんと共に感謝し、管理に

は万全を期しながら有効に活用していきたいと考えています。さて、ここで次の言葉を吟味してみました。と思います。

「過去の歴史を忘れない者のみが、未来をつくることができる。過去をしっかりと認識するということは、実は次の時代を深い心情で築き上げていく原動力となるはずである」

この言葉こそ、新生鬼北町としてスタートラインに立った私どもに相応しい言葉であると感じています。この言葉の意味をよく噛みしめ、皆さまと共に新しい町をつくっていききたいと考えています。多くの先人の貴い努力の軌跡を尊敬の念でしのびつつ、輝かしい未来に大きな夢を描いてみようではありませんか。

二月の下旬までには選出されるであろう新町長のもとに、一万三千人の力を結集することを肝に銘ずるとともに、今年が皆さまにとって良き年となりますようお祈りし結びいたします。